

共同利用施設 案内 主任：上久保敦

室名：蘇生機能解析室

(救急救命学講座：内線357)

場所：6号館2階

概要：1) 全国院外心停止データ(ウツタインデータ)の解析
2) 心肺停止動物モデルを用いた蘇生に関わる研究
3) ヒトにおける蘇生法の研究(蘇生におけるモニタリングの研究、蘇生法の質の改善に関する研究、蘇生後脳機能評価の研究など)

共同利用機器備品リスト

1. データ解析用デスクトップパソコン 1台
2. データ解析用ノートパソコン 1台



3. 他大学共同研究用Web会議システムカメラ、マイク
4. Philips社製AED用データ抽出ソフト



研究紹介

1) 病院外心停止症例における救急救命士によるアドレナリン投与時期と脳機能予後との関連についての検討(植田教授)

病院外心停止症例において救急救命士が傷病者に接触してからアドレナリン投与までの時間が社会復帰に及ぼす影響を解析。2011年から2014年の4年間分の全国ウツタインデータ13,326症例が対象。アドレナリン投与までの時間が短いほど社会復帰率は高い。都道府県によって薬剤投与プロトコルが異なっているため、アドレナリン投与までの時間に大きな差異があることが明らかとなった。

2) 救急車走行中における除細動メッセージへの対応～除細動器とベッドサイド患者監視装置との併用の有効性について～(坪倉講師)

救急車走行中にAEDが外部要因により除細動を指示することがある。救急車走行中のAED心電図は、ECGモニターと併用し使用することで、除細動の適応有無の判断に有効であり、胸骨圧迫時間の短縮に繋がる。(AED装置からデータを取り出すためのソフトを使用)

3) 明治国際医療大学における、マラソン大会等のAEDを含む救護体制構築に向けて(学内研究助成:若手研究)(坂梨助教)

今年度救護活動と全国の救護体制の報告をもとに本学における救護体制構築に必要な課題抽出を行った。・資器材の充実・モバイルAED隊の導入・位置情報管理システムの導入・救護教育プログラムの構築が必要課題であると考えられた。

これらの課題を解決して各スポーツイベントのニーズに合った救護体制を構築し、学生ボランティア実習の内容を充実させて、地域貢献に役立てる。

4) 救急救命士の勤務時における自律神経活動について一性差に注目して一(柳助教)

救急隊員として活動している男女の救急救命士を対象とし、ホルター心電計を用いて24時間勤務時間を起床時と睡眠時に分けて自律神経活動を測定した。さらに勤務前後の血圧や自覚的疲労度を調べて、それらに性差が存在するかを検討すること。自律神経活動、疲労度の観点から、男性と女性に大きな差はなく、24時間勤務という労働環境下でも女性救急救命士は男性救急救命士と同様に勤務できることが示唆された。

5) 口頭指導によるCPRの経年的評価(古元助教)

119番通報を受けた通信指令員が、通報者に対して心肺蘇生法を指導することを口頭指導と呼ぶ。口頭指導により早期にCPR着手が可能となり予後の改善に繋がる。本研究では口頭指導の実施率は増加し、心停止後の予後も年々改善傾向にあることを認めた。